

産業建設常任委員会活動レポート

開催日：令和5年4月25日(木)

開催場所：301号会議室

中標津建設業協会様と懇談会を開催し、次のとおり説明や報告をいただきましたので紹介します。

1. 中標津建設業協会の近況報告について

- (1) 牛乳や乳製品の消費拡大に協力しようと根室管内建設業協会と中標津建設業協会が、昨年に続き牛乳贈答券などを大口で購入し加盟企業の家庭に配布し、生産者団体から感謝状の贈呈を受けました。
- (2) 地域の福祉活動として子ども食堂『もーぐもっく』さんへ牛乳券を寄贈しました。

2. 「牛乳で乾杯条例」について

中標津町では、地域の飲み物である牛乳を生活習慣として身近な「乾杯」の機会を捉えて『1杯目の乾杯は地場産牛乳で』を合言葉に町民の日常生活の中へ浸透するよう「中標津町牛乳消費拡大応援条例」（通称『牛乳で乾杯条例』）が平成26年4月1日施行されました。

来年でこの『牛乳で乾杯条例』が10周年を迎えることから、もっと地域に広がり根付いていくよう活動します。

3. ゼロカーボンシティについて

以下のように、中標津町がゼロカーボンシティ宣言をしたこともあり、調査・研修などを行い、環境へ配慮し脱炭素社会を目指します。

～中標津町ゼロカーボンシティ宣言一部抜粋～

本町では、これまで全国初となるJ-クレジットの取得や、中標津町環境基本条例を策定するなど環境に配慮した取組みを進めています。北海道遺産である格子状防風林をはじめ、豊かな自然環境を未来に引き継ぐためには、より一層、地球温暖化対策を推進する必要があり、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロのにする脱炭素社会の実現を目指し「ゼロカーボンシティ」を宣言します。

令和5年(2023)3月17日

4. 要望書について

コロナ禍の影響によるウッドショックや円安、ロシアのウクライナ侵攻等、世界情勢が混沌としている中、エネルギーや建設資材の高騰が更に続く事が予想され、納入時期が確約されない状況のため、以下に対する理解と適切な対応を望む要望書を提出

しています。

- ①物価変動に基づく契約変動条項(スライド条項)の適切な運用
- ②資機材の納入遅延に対するフレキシブルな工期対応

資材価格は地域により差もあり、時間差でも影響が出てくるため、利益を出すのが難しく、交付金の不足等が感じられるとの意見もあり、非常に厳しい経営状況だと委員会として理解しました。

5. 人手不足について

全国的に人手不足と言われているので、中標津町の現状を確認しました。

- ・全体的に人手不足だが現場監督、現場管理者が特に不足している。
- ・作業員の平均年齢が 50 代、北海道の作業員だと平均年齢は 60 代。とにかく若い世代がいない。
- ・若い世代は給与よりも休暇や仕事の内容を重視する傾向があり離職率が高い。
- ・建設業界においては、俗にいう一人前になるには経験や資格取得等が年単位での時間が必要となるため、若い世代の育成が急務である。
- ・地元に残る若い世代も少ないようだ。
- ・若い世代を雇用できるよう奨学金支援制度についても思案中。
- ・外国人雇用に関しては、他国も技術が高くなってきているため成立しないようだ。

上記のように切実な現状と建設業界を守るための企業努力を知り、多くの課題がある状況と理解しました。

6. その他

- ・ゼロエネルギーの住宅、建物への助成金を町として考えてほしい。
- ・農道等の舗装工事の予算が中標津町は少ないのでは？
- ・町有施設の維持管理は？（修繕か、解体か）